

科目名	現代ファイナンス論特講	担当者	カトウ 加藤	コウジ 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-----------	-----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は企業活動を考える際の価値判断の基本となるファイナンスの知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>① 企業価値を高めるために必要な財務活動の一つとして、投資家に自社の内容をより良く評価してもらう必要がある。そのために活用するファイナンス理論の考え方を自ら学ぶ【A-1:4】</p> <p>② ファイナンス論の知識を持つことで、日常的に発信される経済活動・企業行動のニュースの本質を理解し、次の行動・活動を自ら考えることができる【A-3:4】</p> <p>③ 現代社会の中で起こっている企業行動を、より深い（財務的な）切り口で見ることができるようになることで、自ら道をひらき、その行動に責任を持って取り組めるようになる【A-5:4】</p> <p>④ ファイナンス論を修得することで、他の経営コア科目を理解するために必要な基本的知識を身に付けることとなり、より深い理解に到達することができる【A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 企業経営に必要な資金の調達、運用に不可欠なファイナンスに関する専門性を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学修者がファイナンスに関する知識を列挙し、それぞれの知識を関係づけて理解する(知識)</p> <p>② 具体的な企業の事例に対して、学んだ知識を活かして、考えることで理解を一層深め、自ら使うことができる技能に高める(技能)</p> <p>③ ファイナンス理論と具体的な企業活動の間には、社会情勢・個別事情によって異なる点があることに配慮しつつ、その考え方を活用することで企業の経済活動を理解し、具体的なビジネスシーンに応じて使いこなせるようになる(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS)・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポートドラフトを作成する(自習・レポート作成, SBO①②)【15時間/レポート1本】 学修支援者による気付きを与えるコメント、指導に基づきレポート(初稿)を作成する(レポート作成プロセス, SBO②)【15時間/レポート1本】 レポートに基づくインタラクティブな学習の場(ディスカッション)となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的にレポートを作成するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料の確認の他、自主的に追加参考資料の発見が重要であり、自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する(自主研究・レポート作成・ディベート, SBO③④)【15時間/レポート1本】 <p>【準備学修時間】 準備学習時間：教材精読のみであれば1日もあれば読めるものであるが、内容を理解し、計算なども自らやってみることで身につくことを考えると、その3~5倍の時間は取りつつ、しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。 その他に具体的な企業事例を探るために、各自が教材以外の関連書籍を探し、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。</p>		
スケジュール	<p>① 提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初回提出をすること。</p> <p>② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、を早めの時期に課題提出できない場合には、効率的に学習に取り組むために、レポート作成に必要な質問をメールあるいは添削システムを使用する。レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか(加点項目)
	平常評価	20%	① 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ② 途中稿提出期限(最終提出1か月前)が守れているか
履修者への要望	<p>グローバル経営(MBA)部門のコア5科目の一つであり、他の科目(グローバル経営戦略論特講, アカウンティング論特講, マーケティング論特講, 人材マネジメント論特講)と合わせて履修することが望ましい。 履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員(加藤)に連絡すること</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： グロービス経営大学院 教材名： 『[新版]グロービスMBAファイナンス』 (ダイヤモンド社, 2009年) ISBN:978-4-47-800876-8 2,800円+税
	前期はファイナンス理論の基本的なフレームワークの整理を行うことを目指す。ファイナンス理論はビジネスシーンだけでなく新聞などを読むに当たっても意外と多くの場面で使われているが、その一方で誤った理解に基づき使われているケースも多い。
参考図書	ロバート・C・ヒギンズ(グロービス・マネジメント・インスティテュート訳)『[新版]ファイナシヤル・マネジメント』(ダイヤモンド社, 2002年) ISBN:978-4-47-847059-6 4,400円+税
履修上のポイント	前期の教材は比較的平易なものでファイナンス論の基礎の修得を狙った。課題に対しては、基礎的な考えを修得したうえで、個別な企業がとっている財務行動を調べて具体的に解答すること。もう一段の理解を深めたい場合は参考図書を活用してほしい。
レポート課題 1	事業の収益性を判断するために注目する必要があるキャッシュフロー(特にフリーキャッシュフロー)について、その概念を整理しなさい。その際、フリーキャッシュフローの各項目について説明するとともに、なぜこのように考えるものなのかを説明しなさい。 留意点 ：教材(1)の第2章を参考にしながら、ファイナンス論を取り組むうえでの出発点となるキャッシュフローの考え方を確認してほしい。
レポート課題 2	会社全体の経済的価値を示す「企業価値」について、その考え方を確認したうえで、株価の理論値の計算の方法について述べなさい。 留意点 ：教材(1)の第8章で示される考え方、計算方法について理解してほしい。また、その企業価値がM&Aを考えるうえで重要であり、買収戦略の成否の評価を分けることとなる点も理解してほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 朝倉祐介 教材名： 『ファイナンス思考ー日本企業を蝕む病と、再生の戦略論』 (1) (ダイヤモンド社, 2018年) ISBN:978-4-478-10374-6 1,800円+税
	著者名： 手島直樹 教材名： 『まだ「ファイナンス理論」を使いますか?』 (2) (日本経済新聞出版社, 2012年) ISBN:978-4-53-231829-1 1,800円+税
	前期に修得した基本的な概念に基づきつつ、ファイナンス論について、常識に囚われない「正しい使い方」を理解できるようにしたい。
参考図書	砂川伸幸, 川北英隆, 杉浦秀徳, 佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』(日本経済新聞出版社, 2013年) ISBN:978-4-532-13341-9 3,200円+税 マッキンゼー・アンド・カンパニー/ティム・コラー他(本田桂子/鈴木一功訳)『企業価値経営ーコーポレート・ファイナンスの4つの原則』(ダイヤモンド社, 2012年) ISBN:978-4-47-801798-2 2,400円+税
履修上のポイント	ファイナンス論の履修目的は、実際の経済行動・企業行動の中で利用されている状況をイメージできるようになることにある。教材は具体的な事例と理論との橋渡しをしている。各自、一步踏み込んだレポート作成に取り組んでほしい。参考図書は、具体的にファイナンス論を活用する手法を学びたい学生のために示した。
レポート課題 1	教材(1)第3章「ファイナンス思考を活かした経営」で示される企業の中から、一社以上を選び、その企業の経営の特徴についてまとめ、その企業行動に対するあなたの評価を論述すること。 留意点 ：教材に示されている内容は一面的なものの見方に陥っている可能性もある。自ら情報を調べることで、企業の財務戦略について論述することが望ましい。
レポート課題 2	教材(2)で筆者が提示する「理論と現実のギャップ」あるいは「誤解」に関して、どのように考えるかを論述すること。 留意点 ：必ずしも筆者と同じ意見である必要はない。批判的な立場で考えを示すことも望ましい。